

講義録

横浜市立大学学術情報センター市民講座『地域通貨の可能性～”ひと”と”まち”の再発見～』

第三回 平成 14 年 11 月 21 日

「様々に展開する地域通貨」

講師：泉 留維先生 都留文科大学非常勤講師

(1) マネーの現状 - 実体経済をはるかに上回る規模の金融市場

モノ・サービスの生産のための投資と投機ゲームの区別が難しくなっている。

持続的に維持しうる人間らしい生活のエリア構築、そのための道具としての地域通貨

(2) 地域通貨の概要

地域通貨とは

- ・ 基軸通貨の補完的役割 流通範囲・期間・目的等に制限を加える
- ・ 機能 モノ・サービスの取引(交換)に伴って移動
- ・ 特性 利子が基本的につかない
- ・ 発行者 国家(公的なセクター)ではなく市民・地域共同体といった共的セクター

地域通貨の目的

1. 貨幣の改革・・・例 1) パタコン・RGT (アルゼンチン)
2. 地域経済の活性化・・・例 2) イサカアワーズ： *地域での経済ブロックの形成*
3. ボランティア・・・例 3) タイムダラー：コミュニティ内の相互扶助促進

新たな価値規範の提供(独自の計算単位の導入、相対での価値の設定など)

万能でなく、個々の目的にあわせて機能を特化する

(3) 地域通貨の現状

1980年代から欧米中心に 3,000 以上(タイ、インドネシア、セネガルなど一部途上国でも)

日本の現状：2002年8月現在で 134 種類

- ・ 多様な形式(52%が紙券、24%が通帳形式)
- ・ 価値基準：時間ベース(41種)、円ベース(44種)、時間+円ベース(34種)がほとんど
(出典：泉留維(2002)「地域通貨いろいろ」『未来経営』第7号、29頁)
- ・ 規模：半数以上が 99 人以下(小規模) 規模が大きいほど事業者参加が多い
- ・ 会費：会費有り 64、会費無し 58、不明 12

(もともとの地域通貨の理念に反する？会費で経費を捻出するのは難しい)

地域通貨の事例・・・リーフ(横浜市青葉区)

仕組み：クーポン+紙券

自然農法農家への先行投資、地域で取れた安全な作物を地域に流通することが目的

特徴：自然農作物が担保 発行制限がかかるが、確実な取引ができる

携帯電話で会員(生産者=消費者)同士が必要と供給をマッチングさせるシステム

ポイント： 必要な人に必要な額を供給できる発行、管理システム
 情報ネットワーク構築の重要性

コミュニティ・ボンド

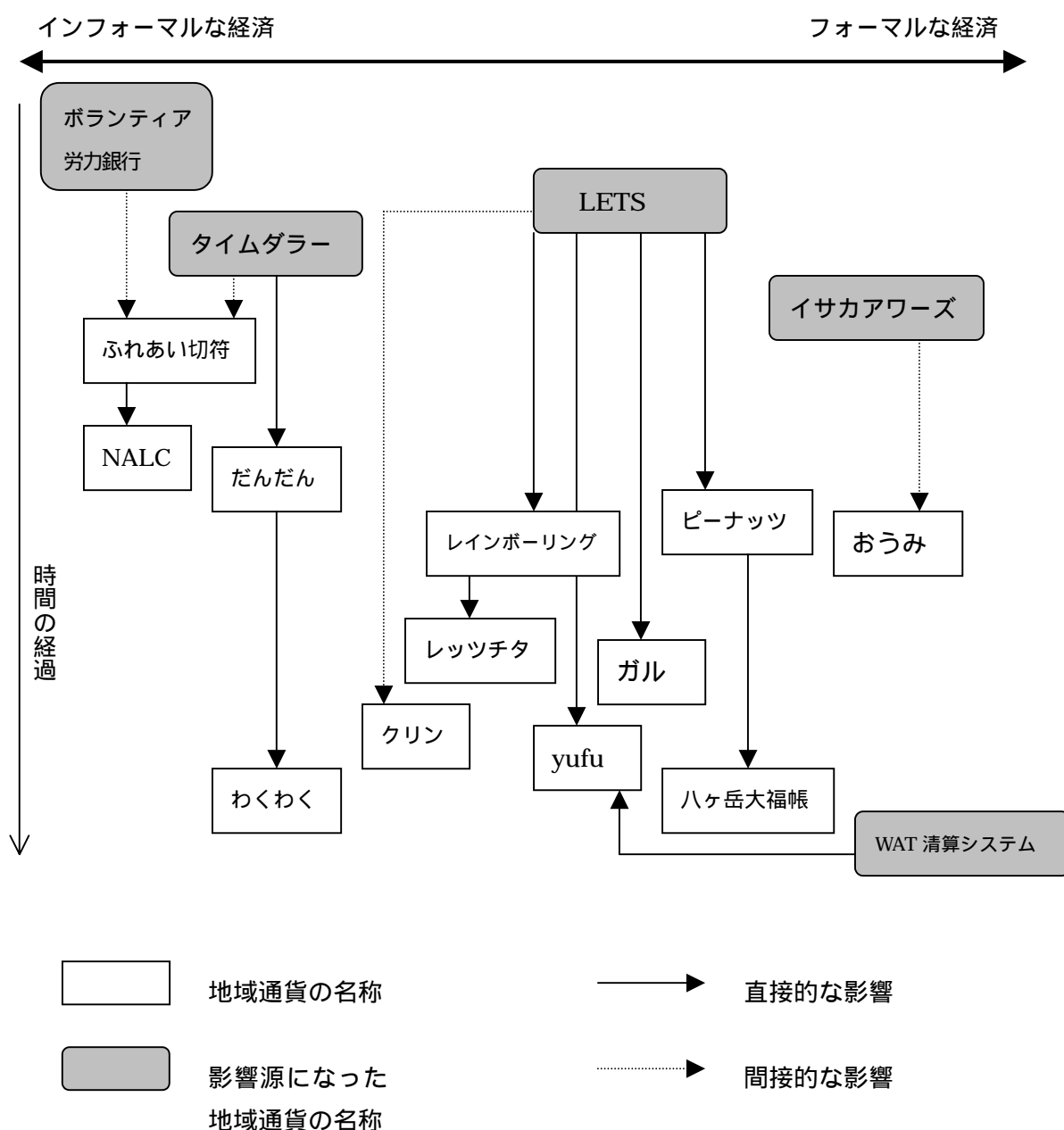
仕組み：住民公募型の地方公債(地元住民が直接起債を引き受ける地方債)

事例：昭和 45 年の自治省モデル・コミュニティ構想(兵庫県神戸市、栃木県高根沢町、岩手県山田町にて)においては市場ベースより低い金利

現在ならゼロ金利で債権を出し、財や地域通貨発行で利回りを補う方法もある。

特徴： 自らの力で資金調達 円貨の流れを変化させる

図：主な日本の地域通貨の展開



(出典) 泉留維 (2001) 「地域通貨の役割と日本における進展」『ノンプロフィット・レビュー』
1(2):157 頁。

(STAFF : 金子 友美 久原 晃子)